

●首にご用心

私の手元に早くも邦訳版「カイト・ランナー」が届いた。翻訳版を出し抜かれた悔しい思いを胸に抱きつつ、枕元で頁を繰る毎日である。本書の中で、アフガニスタンの首都カブールで暮らす主人公の「わたし」は、毎年冬の風合戦を心待ちにしている。バザールへ行き、竹、糊、糸、紙を買い求め自宅の庭で150mの風糸をガラスの粉末を混ぜた糊の中に浸し、それを木にかけて乾かしておく。翌日、それを木製の糸巻きに巻き取る。

私の生まれ故郷長崎でも、幼少の頃同じ光景を見たことを思い出す。思案橋近くの風専門店「森本ハタ店」前の路上には、4月のハタ合戦の季節になると、子供の背丈ほどの一組の物干し台に似た木の枠組みが10mほどの間隔で置かれ、その間を「風糸(よま)」が糸巻きのように巻き取られていた。「ビードロ(硝子屑)」を混ぜた糊に浸したその「ビードロよま」を乾燥させるためだった。店員の目を盗んで乾燥した「よま」を手でなぞると、それは糸というよりガラス細工そのもののように硬く、子供の柔らかい手には白いすり傷が何本も残った。アフガニスタ

ンもパキスタンもインドもタイもそして日本でも、インド洋から東シナ海に至る国々では、町を挙げて、時には国を挙げて、この「ガラス糸」時には「金属糸」で相手の風を切り落とす風合戦に熱狂するのである。ところで、しばしばこの「糸」は凶器に変わる。イカでもタコでもないこの第三の風は、驚異的な空中での機動力を発揮するのだ。急上昇、急降下はもちろん左旋回、右旋回もお手の物であり、どの町にも風揚げの名人伝説が残る。ところが、この機動力がしばしば悲劇を生むのである。前述したがパキスタンラホールで今年2月の新春風揚げ大会で死亡事故が相次いだのは、風がしばしば低空飛行で街中を暴走し、ガラスの凶器と化し、喉を切り、首を落とすなどの損傷を人体に与えるからである。写真は、オートバイ乗車中に「首を守る」ための新型風除器である。しかし、風の愛好者たちにとって、事故は不運な出来事だが、それは祭りにつきものなのであり、事故をとんでもないと思う人々との間には絶えず深刻な衝突が生まれるのである。

●第三の風は世界標準

日本でイカ、タコに続くこの第

三の風を揚げる地域は、長崎や東北の一部等に限られる。

この第三の風が九州長崎の地にもたらされたのは、江戸時代中期のことである。世界に目を向けると、欧米から西アジア、インド、東南アジア等、このダイヤ形の風を揚げる地域はほぼ地球全域に渡る。恐らく、中国の「鳥風」よりはるか昔、オセアニア諸島で宗教や魚釣を目的として誕生した「木の葉風」が西進し、インドネシア、マレーシア辺りで船帆用の機(はた)織りに長けた海洋民族の手で揉まれる内に「布製のダイヤ風」へ変容し、紀元後4～5世紀頃、中国から南下してきた紙と竹製の風テクノロジーとインド周辺で融合して機動力抜群の風に進化し、やがて仏教伝播の波に乗り、王室と庶民間の合戦の伝統を育みつつ、海のシルクロードを東西に伝播したのではないかと推察される。今回は、長崎を舞台とした天のシルクロード事情を述べる。

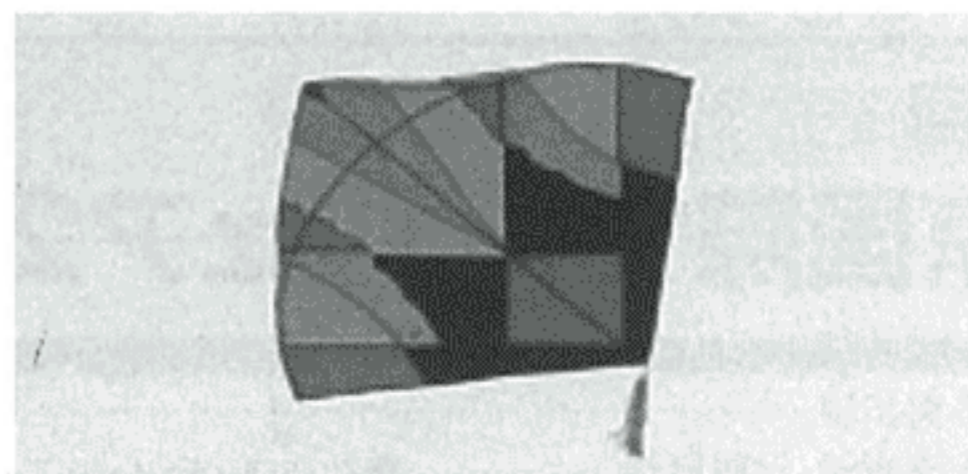
【参考引用文献】

1. 「カイト・ランナー」
(カーレド・ホッセイニ著、アーティストハウス刊・2006年3月3日発刊)
2. 「JKA通信Dec.12,2005」
3. 「Lahore Diary by koidelahor.exblog.jp」
4. 「風大百科～日本の風、世界の風～」
(比毛一朗著、美術出版社、1997)



◀ 新型風除器

バイクの乗員が、ガラス糸や金属製ワイヤーで首や喉を切られないための防具。今年の風揚げ大会では7人死亡。(パキスタンラホールでの風景)



▲ 機動力抜群の第三の風

●編集後記

当社でロボット関連の書籍が発刊された時の会話、「女房を黙らせるロボットがあったら買うよ」。概ね世の殿方は、奥様の3K対策(きつい、けち、怖い?)に苦慮なされているのだろう(私も実は3Kの一人です)。技術の発達時は時として、人間を上回る性能を持つものを創造する。でも、周りを見直してみよう。お菓子片手に、パソコンで仕事のデータを作成したり、満開の夜桜の下で愛を囁きあったりできるのも人間ならではの事。ロボットが特殊技能を持った技術者ならば、私達人間はオールマイティのエンターティナーなんておこがましいかな?でも昨今の技術革新は、特殊技能を持ったロボットたちに痒いところに手が届くような奉仕を受ける日の到来に近いものになっている。人類、ロボットみな兄弟、仲良く共存して明るい老後なんて考えている私、そろそろ引退間近だったりして…(笑)。

●編集部からのお願い

NTSニュースでは読者の皆様からのお便りや投稿をお待ちしております。また、開催予定の勉強会・イベント等、掲載をご希望される方は下記宛までご連絡ください。

〒113-8755 東京都文京区湯島2-16-16 (株)エヌ・ティー・エス「NTSニュース」係
FAX: 03-3814-9152 E-mail: k-kunimoto@nts-book.co.jp

NTSニュース

2006年5月号(通巻87号)
2006年5月10日発行